



# キンシャサの軌跡



JICAコンゴ民主共和国事務所通信

2013年11月 Vol. 6

## Brazy Shot! - 今月のコンゴ共 -

### 「ナンベンバ・タワー」



↑コンゴ川河岸にそびえ立つ「タワー」  
(コンゴ民側より撮影)



→近くで見ると一層不安定感が増す。

今月は「コンゴ共和国」特集！「何？コンゴって国が二つあるの？」そうなのです！コンゴ川を挟む首都間(キンシャサ-フラザビル)の距離は世界一近い(スピードボートで10分程度)。けれども、植民地時代の宗主国がこちら(コンゴ(民))はベルギー、あちら(コンゴ(共))はフランス。その違いが両国の歩み・現状の違いに色濃く出ている。

さて、そんなコンゴ(共)の首都フラザビルの一枚はこちら！一際目立つ「ナンベンバ・タワー」。コンゴ(共)政府の共同官舎で、複数の大臣がここに執務室を構える。不思議な構造が見るものを不安にさせるものの、上層部からの見晴らしは最高！いつか最上階に回転展望レストランができることを事務所一同、期待しております♪

## 心躍るお買い物♪ @ コンゴ共和国

## Brazy Life! - コンゴ共で生きる

フラザビルに出張に行くといつ財布の紐が緩んでしまう。それはキンシャサでは手に入らないものが買えるから♪。まずは「Casino」！賭博場ではなく(笑)、かの有名なフランス資本のスーパーです。チーズ、ワイン、生活用品・雑貨、いずれもキンシャサでも買えるが、Casinoの商品は何故か素敵に見えるから不思議☆そして、言わずもがなフランスパンは格別。首都フラザビルと第二の都市ポワント・ノワールに2店舗あり、ポワント・ノワールでは土地柄(大西洋岸に面している)鮮魚も扱っている。

そして、もう一つは中国系スーパー。なんと干しシイタケ、豆腐、お茶が購入できる(号泣)。歴史的に東側諸国との結びつきが強かったコンゴ(共)は、特に近年中国との経済的関係を強めている(2013年、習近平中国国家主席が最初のアフリカ外遊を行った際にもコンゴ(共)を訪問！)。

最期に、コンゴ(共)でのお買い物の際には以下の点にご注意を！

- ①コンゴ(共)の通貨は「コンゴ・フラン」(CDF)ではなく、中部アフリカ仏語圏で広く普及している「セーファー・フラン」(XAF)です。ちなみに、セーファー・フランへの両替はドルよりもユーロがお得！
- ②2011年6月以降プラスチック袋が禁止されているため、マイ・バックの携行が必要！エコですね♪(有料袋は有り。)



↑仏系スーパー「カジノ」と

↓中国系スーパー「アジア」



## Eat PN! - コンゴ共で食べる -

### シーフードといえばSea Club



ポワントノワールの夕べはロマンチック☆まずは延々と続く浜辺のホテルやレストランのバーで大西洋に沈むオレンジ色の太陽を眺めながら、グラスを傾ける。ビールはもちろん地元産のNGOK(「ワニ」の意)。時に海風が強いが、雰囲気はまるでリゾート。海沿いのホテルは高く出張ではとても泊まれないが、飲み物くらいなら気安いもの。

程なく浜に連なるレストランに灯がともり、優雅なディナータイムが始まる。そんな大人向きの高級レストランの1つが「Sea Club」。本格的なシーフードレストランだ。スズキやタイなどの魚料理や西洋風の肉料理もあるが、お目当てはロフスター！グリルのロフスターを注文すると、どでかいロフスターが2匹できて、度肝を抜かれる。美味しい！食べても食べても終わらない！大満足！屋外の席は時が経つにつれて満席となるので、予約をするか、早めの来店をお勧めします。

なお、こんな高級レストラン以外にも通いで屋台で食べるシーフード食堂もあり、こちらはロフスターはないですが、グッと経済的なのでこれもオススメ♪

長官に呼び出されて警察庁へ向かう車中。「今日は何だろうね♪」コンゴ民慣れた所長は、今日の定食は何かな程度の感覚だ(そして心なしか楽しそう)。こっちは心臓が口から出そうだ。大切なパートナーだから、との理由で会議室ではなく警察長官の執務室へと案内された。おや、意外と悪い話じゃないかも??「今年は政府予算の関係で新規採用見合わせになりました。JICAの研修は現職警官に対して行ってください。」…! そうきたか。

コンゴ民の国家警察は、複数の和平合意を経て「統合」され、すなわちそれぞれで反政府武装勢力だった者も多く在籍し、紛争状態が長く続いていることもあり、「警察とは市民を守るもの」という基本的な知識を得る間もなく、現場に配置されている。武装しているが、モラルは高くない。市民を脅す警官が居ても不思議ではない。新規採用だろうと、現職だろうと、基礎研修の必要性は変わらない。

「わかりました。警察が必要とする研修を実施することがJICAの望みです。」少しも驚かず、軽やかに答える所長。こうした警察の、時に目まぐるしく変わる状況に、可能な限り柔軟に対応する姿勢が、JICAに対する高い評価の源だ。今では案件形成も、予算策定も、ゼロから関係者で行う。そうすることで国家警察自らが案件を形成し、予算策定を行う能力をも養っている。

…また電話だ。やれやれ、今度は何? 「JICAの研修を実施する予定の警察研修センターが、大統領府に乗っ取られた!」…なんですと??(続く)



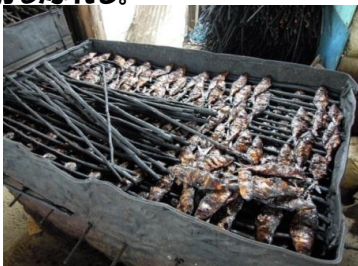
研修中の様子。真剣なまなざしに、研修開始までの苦勞が報われた気がした。

人々に新鮮で旨い魚を! ポイント/ワールでの水産分野支援

コン月のイベント



「さあ、どの魚を買うか♪」朝の浜辺は活気があふれる。



家庭内燻製の様子。大量に魚を並べて一気に燻す!

コンゴ(共)における唯一の技術協力プロジェクトである「ポイント・ワール市水産物バリューチェーン改善プロジェクト」をご紹介します!

コンゴ(共)は一人あたりの国民総所得が2,000ドルを超えているものの(コンゴ(民)の10倍!), 大西洋岸で採掘される石油に頼りきった経済構造となっており、「このままではマズい!」と思った政府は産業の多角化を進めています。水産資源に恵まれ、人々がお魚大好き! ということもあり、政府は中でも水産業の振興に力を入れています。

「水産物バリューチェーン改善って?」確かに難しい(笑)。簡単に言えば、魚を獲る→水揚げする→加工する→売るという一連の流れ(=バリューチェーン)の中で、非効率な部分を無くし、売り手・買い手にとって適切な値段で、新鮮で旨い魚(加工品含む)が安定的に流通するようにしよう! ということです。水揚げの効率化、冷蔵施設の整備、衛生観念の定着、資源を無駄にしない加工方法など、このプロジェクトでは最終的に皆が旨い魚を嬉しい価格で楽しむために必要な提言を行います。

案件の☆目玉☆が、浜辺に建設する零細漁民のための複合施設! 水揚げされた魚を保冷するための製氷機、漁民が集まって協議する集会所、漁具を修理するための場所など、漁民の夢と希望がギュギュッと詰まった施設がこれから建設されようとしています。

愛すべき? コンゴ人



所属: 外務省アジア局長  
氏名: ニャンガさん

コンゴ(共)と日本の橋渡しを担う人材。いつ会っても笑顔で穏やかな雰囲気崩さないが、仕事の遅い部下には楯を飛ばし、時には日本側へも強引な交渉も仕掛けてくる。彼を上手く巻き込むことが、コンゴ(共)における事業成功の秘訣である(と言うと言いすぎか笑)。「退職後は田舎でゆっくり農業に勤しむ」そうだ。

編集後記

今回は、近くて遠い、コンゴ共和国でした! 伊勢海老の写真が衝撃的過ぎて、今すぐにでもポイント・ワールに行きたい衝動にかられます。ん~夢に見そう。

さて、今回は、創刊1周年年号です。時が経つのは本当に早いですね(しみじみ)。キンシャサでは日本の3倍速で時間が進んでいるように感じます…。というわけで、来月号は驚異的な速度で進化する「新しいキンシャサ」がテーマです♪ここキンシャサで過去1年以内に開店したお店を一挙ご紹介☆お楽しみに!